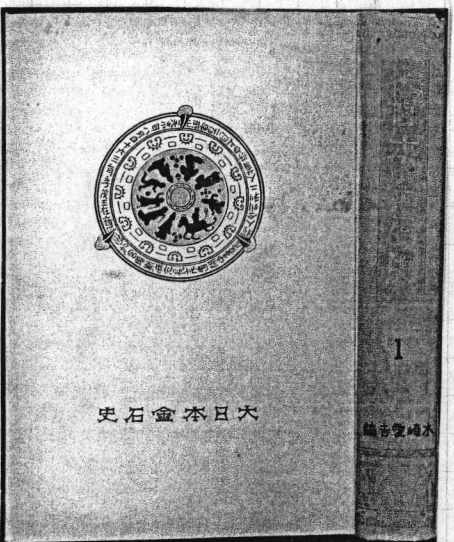


木崎好尚 きよまさ かじやう 新聞記者、金石文・頼山陽研究家。慶應元年十一月二十一日大阪生乳、昭和十九年六月二十四日没（八六五―一九四四）。諱孝、字維則、通稱愛吉。別號好尚堂、好尚堂主人、好尚生。明治二十四年（前村大凶、渡邊霞亭等）と浪華文藝會を興し、機關誌『好尚』を創刊。二十六年『大阪朝日新聞』入社、大正三年退社後金石文研究に専心し、十二年帝國學士院賞受賞。また山陽會、竹田會を主宰して頼山陽、田能村竹田の研究に當る。

著書、五十川淵著『竹雨山房文鈔』全二冊（通稱、編、明治二十年七月七日大阪・吉岡平助刊）、『旅轍悔』（明治二十一年七月十九日大阪・尙文堂）、『返り花』（明治二十二年十二月二十四日大阪・尙文堂、吉岡平助刊）、『頼山陽と其母』（通稱、明治四十四年十月五日大阪、自刊、吉岡寶文館）、『朝日講演集』（合著、明治四十四年十一月十日大阪・朝日新聞合資會社）、

『大日本金石史』全三卷并附圖（通稱、編、I・大正十年十月五日大阪・好尚會出版部）、『西鶴研究・金の巻』（同、大正十二年二月五日大



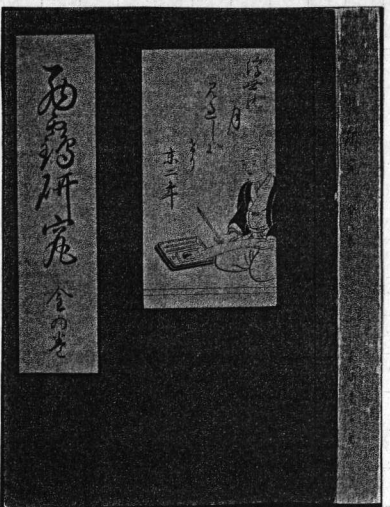
阪・

『たるまや書店』、『新聞記者打明け話』

（合著・大阪朝日新聞社整理部編、昭

和二年四月十七日世界社）、『大楠公

と頼山陽』（昭和七年十二月一日新



社）、『頼山陽先生年譜』

（編、昭和八年十月二十八日廣島・頼山陽

先生遺蹟顕彰會）、^{昭和}「百年記念田能村竹田先生」(昭和九年六月)二十頁山
 陽會)、^{昭和}「青年頼山陽」(昭和十一年一月一日堂華社)、^{昭和}「田能村竹
 田全書」文集・遺著」(編、昭和十一年六月十五日竹田會藏版、帝國
 地方行政學會)、^{昭和}「頼山陽」(昭和十六年八月二十五日新潮社「新傳
 記叢書」)、^{昭和}「頼山陽の人と思想」(昭和十八年四月二十日今日の問
 題社「國民教養新書」)等。